

令和 8（2026）年度 事業計画

I. はじめに	1
II. 重点事業一覧表	2
III. 各部門の重点事業	
1. 大学・短期大学部	2
2. 高等学校・中学校	3
3. 幼稚園	4
4. 学園	4

令和 8（2026）年 3 月

学校法人 比治山学園

I. はじめに

学校法人比治山学園は、これまで建学の精神に基づき、社会の発展に貢献できる人材育成に取り組んで参りました。目まぐるしく変化する時代の中で、本学園が「選ばれ続ける私学」となり、社会の要請や期待に応じて持続的に発展していくため、学校法人比治山学園中期計画＜平成 28（2016）年度～令和 3（2021）年度＞に引き続き、第二期の中期計画＜令和 4（2022）年度～令和 9（2027）年度＞を策定いたしました。当該計画では、建学の精神と、それに基づく学園の使命を実現するために、6つの重点戦略ビジョンを設定の上、12の重点施策を掲げ、学園が一体となって必要な施策・事業を着実に展開してきました。第二期中期計画の中間地点となる令和 6 年度は前期 3 年間の進捗状況を確認し、事業の選択と集中を図り焦点化した計画へとローリングを実施し、後期 3 年間で中期計画達成を目指すこととしています。また教育実践目標『五訓「正直、勤勉、清潔、和合、感謝」』に則り、学生・生徒・園児一人ひとりを大切に丁寧な教育・保育を行うこととしております。ついては、第二期中期計画の実現を目指し、ここに重点事業を中心とした「令和 8（2026）年度事業計画」を取りまとめて実行いたします。

○比治山学園 建学の精神

「悠久不滅の生命の理想に向かって精進する」

○比治山学園 使命（ミッション）

「悠久不滅の生命の理想に向かって精進する豊かな愛情と科学的知性をそなえた心身共に健康な人間を育成」

○比治山学園 五訓 教育の実践目標

「正直・勤勉・清潔・和合・感謝」

○比治山学園 6つの重点戦略ビジョンとそれに基づく重点施策

- 1「教育・研究」 主体的・対話的で深い学びの推進、卓越した教育を支える独創的研究の推進
- 2「地域貢献」 地域貢献・連携の充実
- 3「入学者確保」 学校・園の訴求力の向上、募集活動の質的向上
- 4「国際化」 国際人材の育成、留学に参加しやすい環境整備
- 5「情報化」 ICT活用による主体的・対話的で深い学びの推進、教育・研究活動等を支える ICT 環境の提供
- 6「経営基盤」 財務基盤の強化、持続発展基盤体制の確立

・各設置学校の使命（ミッション）、ビジョン

I 比治山大学

1 使命（ミッション）

私たちは、建学の精神のもと、学生の教育に重点を置く大学として、豊かな人間性を培い、生きる力としての汎用的能力（自立・想像・共生・創造）を育み、深く専門の知識及び技能を身につけさせることにより、社会や時代の求める専門職業人を育成し、生命の尊厳と永続性という視点から、グローバル時代を見据え、地域と共生しながら、持続可能な社会の発展に貢献することを使命とします。

2 ビジョン

学生が主体的・能動的に学び、学内外から卓越した教育機関として評価される高等教育拠点となる。

広くて深い教養に裏打ちされた豊かな人間性を培い、汎用的能力（自立・想像・共生・創造）を育み、グローバル化し急激に変化する 21 世紀に求められる多様文化適応力を身に付けさせ、地域社会や世界の発展に貢献できる幅広い職業人及び専門知識を生かした専門職業人として、中核的人材を育成する。

II 比治山大学短期大学部

1 使命（ミッション）

私たちは、建学の精神のもと、学生の教育に重点を置く大学として、豊かな人間性を培い、生きる力としての汎用的能力（自立・想像・共生・創造）を育み、広く専門の知識及び技能を身につけさせることにより、地域のニーズに応える職業人を育成し、生命の尊厳と永続性という視点から、グローバル時代を見据え、地域と共生しながら、持続可能な社会の発展に貢献することを使命とします。

2 ビジョン

学生が主体的・能動的に学び、学内外から卓越した教育機関として評価される短期高等教育拠点となる。

広い教養に裏打ちされた豊かな人間性を培い、汎用的能力（自立・想像・共生・創造）を育み、地域社会に求められる職業的専門性を身に付けさせ、実践力を高めていくことのできる職業人材を育成する。

III 比治山学園中学・高等学校

1 使命（ミッション）

建学の精神及び校訓に基づいた中等普通教育を施すことを通して、男女共同参画社会の実現や地域社会に貢献できる人材の育成

- (1) 心安らかに他者とコミュニケーションをとることができる生徒 【正直】
- (2) 生涯にわたって学ぶ姿勢を持ち続けることのできる生徒 【勤勉】
- (3) 文化的な態度で、生命の保持・発展に寄与できる生徒 【清潔】
- (4) 幅広い視野を持ち、多様性を認め、他者理解のできる生徒 【和合】
- (5) 伝統を継承しつつ、国内外問わず、持続可能な社会の発展に貢献できる生徒 【感謝】

2 ビジョン

(1) 感性や社会性を身につける学びを通して、ひとりの人間としての確かな土台をつくりあげるとともに、生徒の学力を着実に伸ばし、高い進路目標を達成している。

(2) 学習活動、部活動、学校行事等を通じて、多様性を認め、自己の主体性を確立し、豊かな感性と感謝の心を兼ね備えた生徒を育成している。

(3) 比治山のブランドイメージが高まり、生徒、保護者、教育関係者から信頼され存在感のある学校になっている。

(4) 中期収支見込みの改善に向け、経営改革の取り組みを着実に進めている。

IV 比治山大学短期大学部附属幼稚園

1 使命（ミッション）

”命を大切に作る心” ”感動する心” ”しなやかな心” を柱として、「いきいき・のびのび・どきどき」をモットーに、基本的な生活習慣・態度を育て、豊かな心情や思考力を養い、意欲や思いやりのある子どもを育てる。

2 ビジョン

(1) 大学・短期大学部の附属幼稚園として、先進的な教育・研究を実践すると共に、学生の実習と多様な研究協力の場を提供している。

(2) 子育て支援事業を充実させ、地域になくてはならない園へと発展している。

(3) 安心・安全、自然環境豊かな幼児教育の場として相応しい環境づくりに努めている。

(4) 定員確保に努め、財政の基盤を確立している。

II. 重点事業一覧表

	大学・短期大学部	高等学校・中学校	幼稚園	学園
教育・研究	1. 学生の成長実感・満足度を高める教育の推進 2. 学生の自己実現のためのキャリア支援 3. 学修者本位の教育課程・教授内容の体系化 4. 学生生活の充実 5. 教学マネジメントの確立による質保証	1. 学活・総合的な探究の時間の再編成 2. 魅力ある中学体験学習・研修旅行・修学旅行の検討	1. 教育の特色	
地域貢献	6. 地域と連携した教育・研究活動の推進			
入学者確保	7. 入学者選抜の検証と改革 8. 入学定員確保のための広報活動の強化	3. 比治山サポートルームの設置 4. 広報活動の強化	2. 入園定員充足のための広報強化	
国際化	9. 国際教育の推進			
情報化	10. ICT 活用による教育の改善	5. ICT を利活用した個別最適化学習の推進 6. 効果的な教育ソフトウェアの導入と ICT 機器の整備		
経営基盤	11. 大学・短期大学部の教育組織の見直し	7. 生徒減少に対応した今後の学校の在り方検討	3. 今後の幼稚園の在り方検討 保護者のニーズに対応した施策の推進	1. 財務基盤の強化 2. 財務基盤の強化に向けた情報化施策の推進

III. 各部門の重点事業

1. 大学・短期大学部

	事業名	事業内容	令和 8 (2026) 年度
1	学生の成長実感・満足度を高める教育の推進	IR 分析を基にした PDCA サイクルにより、学生の成長実感・満足度を高める教育を推進する。	1. 教育改善の PDCA サイクルの実質化及びその結果を反映させた教職員合同研修会プログラムの企画・実施 2. 多様な授業スタイルを実現する教育の推進
2	学生の自己実現のためのキャリア支援	学生の成長実感・満足度を高めるようなキャリア支援を実施するため、学科のキャリア教育とキャリアセンター事業の連携と充実を図る。	1. 大学・短大のキャリア教育実施 各学科で実施しているキャリア教育について、引き続き重点事業として継続する。 加えて、1・2 年次生より、必要に応じて各学科の授業の一部にキャリア支援系の講座を導入する。
3	学修者本位の教育課程・教授内容の体系化	学生の成長実感が深まり、学修の満足度が高まるよう、学修者を主体とした教育課程を体系化し、主体的な学びを推進及び再構築する。 さらに、授業内容の体系化に取り組む。	1. 共通教育の検証 2. 専門教育の実施及び検証 3. 改正の目的に基づいた検証 4. 柔軟な教育課程の再構築の実施準備（学則改正等）
4	学生生活の充実	クラブ活動の活性化、及び学生ボランティア活動の支援体制の整備等により、学生生活の充実と満足度の向上を図る。	1. クラブへの支援 2. クラブ新制度の課題と見直し② 3. ボランティア活動の支援体制の見直し
5	教学マネジメントの確立による質保証	毎年実施する自己点検評価の結果に基づき、教学マネジメント体制のもとで教育研究の改革・改善に継続的に取り組む。	1. 自己点検評価に基づく教育研究の改革・改善の実施 2. 教学マネジメント体制に係る点検・見直し
6	地域と連携した教育・研究活動の推進	地域と連携した実践的活動により、 ①学生の地域課題に関する理解促進と課題解決能力の育成 ②地域と密着した研究の推進、及び地域貢献を通じた大学への評価の向上を実現する。	1. 地域連携等 PBL 科目導入 2. 多様な授業スタイルを実現する教育の推進
7	入学者選抜の検証と改革	入学者選抜の妥当性を継続的に検証し、入学者選抜方法の見直しと実施に向けた準備を行う。	1. 令和 9 年度入学者選抜実施 2. 文部科学省や本学の入学者選抜改編等に伴うシステム等の対応、実施に向けた準備 3. 現優遇制度の見直しと新優遇制度の検討・実施

8	入学定員確保のための広報活動の強化	広報活動の拡充や教育・研究コンテンツの制作による情報発信など、効果的な募集広報活動を実施して接触者数増をめざすとともに、接触者の本学への志望度を維持するよう継続的な情報発信を行う。	1. 接触者への広報活動の充実 2. 学生広報スタッフの育成・指導 3. 出願に繋げるための効果的な広報活動の実施と検証 4. 大学の認知度向上 5. 大学案内と Web ページリニューアルの効果検証 6. 大学改組に係る広報活動
9	国際教育の推進	身近な環境を国際化することで、異文化理解や留学を学生に意識させる。学内に外国人講師を常駐させるなど大学生活を通じて身近に国際教育が受けられる環境を整備し、学生の主体的な学びへとつなげる。	1. グローバルエデュケーションセンター設立準備 2. 資格検定 (TOEIC、IELTS、TOPIK 等) 対策講座の実施 (グローバルカフェ (仮称) の検討を含む。) 3. 留学プログラム見直し③ 多様な授業スタイルに対応した留学コンテンツの開発・実施
10	ICT 活用による教育の改善	学生個々の ICT 活用能力を高めるための基盤整備を行う。対面、遠隔授業における質向上、学内プラットフォームの構築などに取組む。	1. ICT を活用した教授方法への変更 2. FD の実施 3. ICT 環境の整備多様な授業スタイルに対応するための環境整備 (LMS、オンラインコンテンツ作成機能、オンラインコミュニケーション機能等)
11	大学・短期大学部の教育組織の見直し	社会のニーズや時代の要請に対応した大学各学部・学科及び短期大学部各学科の改組・再編等、将来構想の具現化を図る。	1. 教育組織の再編案の策定と新教育組織の設置 2. 現行の教育課程の見直しと新教育課程の設置

2. 高等学校・中学校

	事業名	事業内容	令和 8 (2026) 年度
1	学活・総合的な探究の時間の再編成	学活および総合的な探究の時間については、年間を見通した計画のもと、学校行事等により時間的な柔軟性が生まれる時期を活用し、重点的に実施する。 特に、修学旅行期間中は他学年において時間割調整が可能となることから、この時期を活用して校外学習や外部機関との連携を含む探究活動を実施する。	1. 学活総合の指導計画の完成に向けて協議・検討
2	魅力ある中学体験学習・研修旅行・修学旅行の検討	本校の教育内容とリンクさせた中学体験学習及び研修・修学旅行の在り方を検討する。	1. 新体験学習・旅行実施
3	比治山サポートルームの設置	不登校傾向や保健室登校の生徒に対する学習および心理的支援の充実を図るため、「比治山サポートルーム」を設置する。個々の状況に応じた学習課題の提示や教材の共有、面談等を通して、学習機会の保障と段階的な教室復帰を支援する体制を整える。	1. 比治山サポートルームの運用・改善
4	広報活動の強化	地域への比治山ブランドの確立 ①地域の活性化と社会貢献を図るため、「ひじやまセミナー」を充実させる。 ②小中学校グループの児童生徒に対して、また地域団体に対してクラブ部員の派遣事業を展開する。 ③比治山の魅力を発信する。 ④地域に対して主体的に考え行動する生徒を育成する。	1. セミナー内容の深化 2. 指導者・生徒の派遣 3. OS. 学校説明会等広報活動の充実 4. ひじっ子みゆにていーくりーんの実施
5	ICT を利活用した個別最適化学習の推進	生徒一人ひとりの個性や能力、適性に応じた指導の充実を図るため、個別最適化学習アプリを全校生徒に導入する。	1. アプリの運用・研究・見直し・継続可否の決定
6	効果的な教育ソフトウェアの導入と ICT 機器の整備	ICT ツールであるグループウェアの見直しを図るとともに、基盤システムである学籍ソフト、学籍サーバーや、職員室、CAI 室の PC、教員用・予備 iPad を更新する。	1. 教員用・予備 iPad、職員室等の PC の更新について検討 2. 教室のプロジェクター等の更新
7	生徒減少に対応した今後の学校の在り方検討	少子化の進行や生徒の多様な個性や特性に的確に対応した中高一貫教育を実現するため、入学者選抜や学校規模等、将来構想の具現化を図る。	1. 男女共学化 2. 通信制課程準備

3. 幼稚園

	事業名	事業内容	令和8(2026)年度
1	教育の特色	本園の特色である豊かな自然環境での教育、体験活動、大学・短大施設を利用したイベントを実施し、教育の特色の広報を充実させる。	1. 豊かな自然環境での教育 ①「さくらの森」「ビオトープ」等での教育 ②自然環境での教育内容の発信 2. 体験活動 ①留学生との交流会の開催 ②英語教室の開催 ③大学・短期大学部との連携（講演会・学科事業・クラブ活動・共同研究等） 3. 大学・短大施設でのイベントの実施及び参加（公開講座・運動会・大学祭等）
2	入園定員充足のための広報強化	未就園児を対象とする子育て支援事業の充実を図り、継続的に広報を行う。幼稚園の教育活動の見える化を充実させ、広報活動の強化を行う。	1. 子育て支援事業の充実と広報 ①子育て支援事業の改善及び支援事業の案内 ②子育て事業内容の SNS 発信 ③子育て支援事業参加者へ幼稚園教育・課外事業及びイベント等の継続的広報。 2. 幼稚園の教育及び事業の広報強化 ①幼稚園の特色の広報チラシ作成 ②幼稚園教育等の SNS 発信及び HP 発信 ③卒園児の保護者及び地域の方へのボランティア依頼による地域連携とボランティアへの幼稚園教育の紹介
3	今後の幼稚園の在り方検討 保護者ニーズに対応した施策の推進	配信サービスシステムを利用し、保護者に対する教育内容やイベント情報等の即時発信を拡大する。また、保護者から要望がある課外事業やサービス事業の実施及び改善を行う。	1. 保護者への保育内容の即時発信 ①保護者限定配信サービス「コミュなび」による教育内容の配信 ②イベント情報等の配信 2. 課外事業の実施と充実 ①課外活動 ②サービス事業（給食・延長保育） ③サポート体制（子育て相談） 3. 満三歳児保育の実施

4. 学園

	事業名	事業内容	令和8(2026)年度
1	財務基盤の強化	各学校・園の教育研究活動を持続可能なものとするため、学園の全ての部門において、徹底した事業見直しの実施等による収入増加策、支出抑制策を実行し、収支バランスの改善を図ることにより、学園財政の健全化を進め、財務基盤を強化する。	1. 財政健全化の推進 ①財政健全化計画の進捗管理と見直し（財政健全化推進部会） ②事業見直しの実施と予算編成への反映 2. 収入増加策 学園の全部門における収入増加策の検討及び実行 ・周年記念事業等による寄附金募集 ・授業料等納付金の見直し 等 3. 支出抑制策（経費削減・経費抑制） 学園の全部門における事業見直し等による経費削減や経費抑制の実行 ・教職員の定数管理と人材育成 ・設備機器等の設置・運用の見直し 等 4. 経営改善計画の策定・実施
2	財務基盤の強化に向けた情報化施策の推進	学園の最重要課題である財務基盤の強化に資するため、ICT 基盤を効果的に活用し、業務DXやAIの活用等の学園全体の運営経費削減や業務効率化につながる情報化施策を推進する。	1. 業務DXやAIの活用等の運営経費削減や業務効率化につながる取組の推進